

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 15「陸の豊かさも守ろう」

～陸の生きものや森林、生物の多様性を守る～

私たちの暮らしは、きれいな水や空気の供給源である森林などの自然と、そこで生きるたくさんの生物に支えられています。しかし、暮らしが豊かで便利になるにしたがって、多くの自然が破壊され、森林が失われ、そこに生きていた多くの生物が絶滅の危機にさらされています。

現在、世界では、年間約13万平方キロメートル、栃木県の20個分(小山市では757個分!)の森林が失われていると言われています。また、大気汚染や森林伐採、温暖化などの影響により、年間4万種もの生物が絶滅しており、自然界のバランスが崩れるおそれがあります。

国土の約7割を森林が占める日本においても、過疎化や高齢化により、人の手入れがなくなった森林が増え、土砂災害の防止や水質の浄化などの機能が十分に発揮

されないといった問題が生じています。また、住宅開発などの都市化や森林伐採により、生息する場所を奪われた生物が、その数をどんどん減らしています。

これまでのように、自然の恩恵を受けながら暮らしていくためには、適切な自然管理により、自然環境と生物の多様性を守っていくことが大切です。日々の暮らしの中で自然環境のためになることを考え、行動に移していくことで、都市と自然環境との調和や生物多様性のバランスを回復し、守り続けることにつながります。

私たちにできること

- ・植樹活動に参加する
- ・田んぼなどの生き物調査に参加する
- ・地元の旬の食材を食べる
- ・環境に配慮した商品を選ぶ など

SDGs とは、国連で採択された、すべての国や地域が 2030 年までに達成することを
目指して取り組む世界共通の目標のことで、17 の目標があります。



目標 16「平和と公正をすべての人に」

～平和で参加しやすい社会を促進し、公正な司法制度をつくる～

今、世界は平和と言えるでしょうか。紛争や戦争、暴力や虐待などが、今も世界各地で起きています。武力紛争などの状況の中では、貧困や飢餓、衛生状態の悪化など、これまで紹介してきたSDGsのさまざまな目標に悪影響を及ぼしており、世界では、約2億5,000万人の子どもが命の危機にさらされながら生活を送っています。また、暴力や虐待などの被害を受けても、法律や制度が整っていないため警察や裁判に訴えられない、加害者が処罰されないなど、多くの人が、さらなる恐怖や被害に苦しめられています。

平和と言われている日本においても、虐待やDV、日常的なハラスメントなどさまざまな暴力が起きています。特に、子どもの虐待相談対応件数は、年間約

16万件と年々増加を続けており、毎年50人以上、1週間に1人の子どもの命が虐待によって奪われています。また、子どもや立場が弱い人の中には、自分から誰かに助けを求めることができない人もいます。

この目標は、平和な社会をつくり、誰もが平等になる法律を整備することを目指しています。まずは、「どこで、どんなことが起きているのか」を知り、それを多くの人と一緒に考えることが、目標の達成につながります。

私たちにできること

- ・平和や紛争問題などについて調べる
- ・小山市発祥の「オレンジリボン運動(虐待防止活動)」に参加する
- ・NGO や NPO などの支援活動に寄付をする など